

# 大東文化大学 東洋研究所所報

2012.6 No.57

## 目次

雑感	松本 照敬	1
2012 年度東洋研究所共同研究課題		2
〔国際交流講演会〕 韓国の先祖供養		
	東方学院講師 釈 悟震氏	5
東洋研究所専任研究員研究業績一覧		6
2011 年度東洋研究所共同研究班活動報告		7

## 〔研究員の著書紹介〕

福田俊昭著 『李嶠と雑詠詩の研究』 小林 春樹	9
人事・名簿	10
2011 年度東洋研究所会議報告	11
2011 年度発行『東洋研究』	11
新刊案内	12

## 雑 感

東洋研究所教授 松本 照敬

8月に満70歳となる。明年3月をもって定年、大学を去るに当たってさまざまな思いが胸中を去来する。

私が本学に奉職したのは、昭和58年のことである。当時の本学は、教員と職員が一体となって、和気藹々とした雰囲気満ちあふれていた。それぞれの事務室内も明るく、笑顔の絶えない職場であった。

変質したのは事務処理に、効率主義、能率主義が導入されてからである。事務職員の顔に日々緊張感と疲労感がただよび、笑い声が聞こえなくなった。事務室内にゆとりや大らかさが失われたためである。大学は、利潤を追求する企業とは異なるのだから、効率一辺倒という運営法はいかがなものだろうか。

教学サイドについて言えば、自己点検・自己評価が行なわれるようになってから、大学全体から活気がなくなったように思える。

大学評価の書類作りに携わった教職員の方々の労苦に対して、心からなる敬意と謝意を表したい。

大学評価の委員に選出された先生方は、これまで立派な学問的業績を挙げてこられ、また教育についても熱心な方々である。事務職員もまた、事務能力に長けた方々である。

委員の先生方や優秀な事務職員が、大学評価を受けるための書類作りに、多年に亘って注ぎ込んだ精力を、研究や教育あるいは大学運営に注いでいたら、さぞかし大きな成果が挙っていたことであろう。惜しまれてならない。

大学評価作業については、プラス面もマイナス面もあるが、全体としてマイナス面の方がまさ

っているのではないか。

たとえばシラバス整備という作業がある。学年暦を工夫して、各授業が30回になるよう配慮しているが、色々な事情で何回かは休講になることが避け難いから、シラバス通りにはならない。また時事問題を扱う講義については、世界情勢は刻々と変化しているのだから、前もって講義内容を予測するのは難しいし、シラバス通りの授業を行っていたら無味乾燥の講義となって、学生の興味を引きつけることはできない。

年度当初に、学生に受講理由を尋ねてみると、「シラバスを読んだから」と答える学生は一人もいない。誰一人としてシラバスに目を通していないのである。

必修課目以外の講義の受講理由は、「時間割の都合が良い」という答えが最も多いのである。学生が読まないのだから、シラバス整備には何の意味もないのである。

授業評価もまた無意味な作業である。教員側は、20年も30年も講義に携わり、講義内容や方法について吟味し、頻繁に学生の要望を取り入れて講義に臨んでいる。片や学生はわずか1、2年の受講経験だけで授業評価をしようというのだから、まことに不遜な話である。

1週間という期間内に全学的に授業評価を行なうから、月曜や火曜などはじめのうちはよく考えて諸項目にチェックしていた学生も、木曜や金曜になると飽きてしまっていていい加減にチェックするようになる。

不真面目な学生は、自分が授業をサボっているのに、一度も休講したことのない教員に対し、「休

講が多い」と書き込んだりする。

私自身について言えば、平均点よりかなり高い点数がつけられているが、これは恥ずべきことだと考えている。期末テストの問題がやさしく、出席率についても採点についても甘いからである。

私よりはるかに教育熱心で、毎週レポートを課し、テストの採点の辛い先生が低い評価をうけているのである。授業評価を強制的に行なうのは、教員のやる気を無くさせるから早く廃止した方がよい。

ミシュランが日本に上陸したとき、「当店は貴社の評価を受けなくても、上質の料理を出してさえすれば、お客さんは味がわかってくれるので星はいりません」と言って辞退した気概のある店も少なくないと聞く。

大学も「外部評価など不要」と言えるだけの気概をもつ必要がある。今、どの大学でも生き残りをかけて必死である。誤った基準に踊らされると、いつの間にか文科省のめざす大学の平均化、画一化の方向に誘導されてしまう。あげくの果ては、特色の何もない大学として自滅する他ない。充分に心すべきことである。

大学は、色々と検討課題を抱えているが、最近また一つ課題が増えてしまった。東大が突然「9月入学制度」への移行を打ち出したからである。入学時期は、幼稚園から小、中、高、大学、大学院

とずっと連続しており、制度を変更しようとするなら、一大学だけで突走るのではなく、文科省に働きかけて、幼稚園から大学まで全て9月入学にするよう求めるのが筋というものである。

9月入学にすれば外国人留学生が入学しやすいとのことであるが、外国人学生のために自国の学生全体に迷惑を及ぼすというのは本末転倒ではないか。

私大では、外国人が入学しやすいように、入学時期を4月と9月の2回設定して、半期ものの講座を多く作り、支障のないよう工夫しているのである。東大にそれができない筈はあるまい。

東大が9月入学制度への変更を呼びかけるのは、旧帝国大学と私大の早・慶だけだというのだから呆れてしまう。エリート臭芬々の制度改革である。

現在の日本をリードする政治家や役人には東大出身者が多いが、自己中心的な考え方をする大学から輩出されるのだから、自己中の政治家や役人ばかりになるのももっともであるという気がする。

本学の卒業生は自己中心であって欲しくない。他者を思いやり、他者の痛みのわかる人間であってほしい。

そういう人材を輩出するためには、本学がもとのように教員と職員が一体となって明るく澁刺とした雰囲気を取り戻す必要がある。そんな日が早くくるよう切に祈ってやまない。

## 2012年度 東洋研究所共同研究課題

(専=専任研究員、担=兼担研究員、任=兼任研究員、特=特別兼任研究員)

1 班	<b>東洋における異文化の本質的相違性に関する研究</b>
	期間 2010～2012年度(研究期間中) メンバー(10名) 専松本照敬〔主任〕 福田俊昭・兵頭徹・山田準・岡崎邦彦・小林春樹 担中村昭雄・田辺清・井上貴子 任片岡弘次 概要 今日複雑な社会情勢を眺める人は、多様な価値観の存在を相互に認め合うことの必要性を痛感するであろう。地球という有限な環境の中で、多くの生命が共存する社会の在り方が模索されねばならない。本共同研究は、こうした「共生社会」の創造を視野において、東洋における異文化及び東西文化に見られる相違性を抽出することを目指している。異文化の根底にある相違性が認識されれば、相互理解への途も開けてくるであろう。21世紀における新しい社会の創造を探究して先駆的な研究を進めていきたい。
2 班	<b>歴史的にみた中国の対少数民族政策と少数民族の伝統的社会</b>
	期間 2011～2013年度(継続) メンバー(3名) 担岡田宏二〔主任〕 村井信幸 任由川稔 概要 今日の中国は、漢族と55の少数民族を含む56種の民族によって構成される多民族国家であり、中国において漢族の対少数民族関係がもつ意義は大きく、漢族と少数民族との関係は長い歴史を通じて形成されてきたものである。そこで本研究では、過去において両者のあいだにはどのような関係があり、漢族などによって形成された中国歴代王朝は異民族と呼ばれた少数民族に対してどのような政策をとってきたか、また少数民族側の政治や伝統的な文化、社会組織がどのようなものであったか、などといった点についての実証的な研究を行う。

3 班	<b>20世紀・21世紀における日中関係と中国の対外抵抗・対内改革・世界大同</b>
	<p>期間 2012～2014年度（継続）</p> <p>メンバー（14名） 専岡崎邦彦〔主任〕 担内田知行・柴田善雅・齊藤哲郎・篠永宣孝 任伊藤一彦・上野英詞・植松希久磨・窪田道夫・嶋亜弥子 特安藤正士・小島麗逸・近藤邦康・中島宏</p> <p>概要 アヘン戦争以後半植民地に陥った中国は、1895年日清戦争に敗れて帝国主義列強に分割される危機に直面した。厳復は課題を「救亡（国家を滅亡から救う）—民主（民を君主の奴隷から国家の主人に変える）」と把握した。外国の侵略に抵抗し、国内の君主専制を改良し、革命し、国家間・階級間の圧迫・闘争がない「世界大同」をめざす、という運動が次々に起こった。その一つである中国共産党の運動をもこの新潮流の中の一つとしてとらえて、過去と現在を分析し、未来を予見する。10年の長期研究計画（2012～2021年）として「中国共産党100年史」研究を資料の整理を中心に進めたい。</p>
4 班	<b>昭和社会経済史の総合的研究</b>
	<p>期間 2011～2013年度（継続）</p> <p>メンバー（5名） 専兵頭徹〔主任〕 担大杉由香・小湊浩二・武田知己・任石井寛治</p> <p>概要 第4班では、『昭和社会経済史料集成』の刊行に際し、第Ⅰ期の「海軍省資料」全30巻と、第Ⅱ期の「昭和研究会資料」全8巻につき、2011（平成23）年8月の刊行をもち全38巻を完結した。そこで本研究班では、昭和史の総合的な研究を本格的に進め、研究課題の設定と研究発表とを継続しながら研究成果物の刊行に向けた活動を進めて行きたい。</p>
5 班	<b>日中文学の比較文学的研究—『藝文類聚』を中心にして—</b>
	<p>期間 2011～2013年度（研究期間中）</p> <p>メンバー（8名） 専福田俊昭〔主任〕 担日吉盛幸・浜口俊裕・中林史朗・藏中しのぶ・任成田守・芦川敏彦 特遠藤光正</p> <p>概要 本邦に伝来する最古の現存類書の『藝文類聚』は我が国の古典文学に多大の影響を与えていることは周知の事実である。それが今日に至るまで雑家の書として等閑視されてきた嫌いがある。それ故、未読解の本書を訓読して、原典との校勘、典拠の解明、索引の作成をすることは、単に国文学への影響のみならず、類書学上においても大いに貢献するものであると考える。その研究成果を逐年刊行して今日に及んでおり、斯学の評価を得ている。</p>
6 班	<b>西欧植民地主義再考</b>
	<p>期間 2011～2013年度（研究期間中）</p> <p>メンバー（5名） 専山田準〔主任〕 担瀧口明子 任岡倉登志・齋藤俊輔 特生田滋</p> <p>概要 西欧植民地主義の成立、発展、思想的背景については数多くの研究がなされて来た。これら西欧植民地主義の歴史研究はヨーロッパと新大陸つまり大西洋世界、ヨーロッパと旧大陸つまりインド洋と太平洋世界を対象とし、それとは別に植民地宗主国の歴史研究が存在した。これら大西洋世界における西欧植民地主義の歴史研究からはインド洋と太平洋世界における植民地主義が見えてこない。逆にインド洋と太平洋世界における西欧植民地主義の歴史研究からは、大西洋世界の植民地主義は見えてこない。</p> <p>そこでこの研究班では、大西洋世界、植民地宗主国、インド洋と太平洋世界の3大研究対象を比較統合し、西欧植民地主義を再考することを目的に、いくつかの個別的研究を分担して研究しようとする物である。</p>
7 班	<b>唐・李鳳撰『天文要録』の研究（訳注作業を中心として）</b>
	<p>期間 2010～2012年度（研究期間中）</p> <p>メンバー（11名） 専小林春樹〔主任〕 担渡邊義浩 任小坂真二・小林龍彦・近藤正則・中村聡・中村士・細井浩志・山下克明 特進藤英幸・濱久雄</p> <p>概要 『『天文要録』の考察 [一]』（2011年3月）として、その第1冊（巻一）の、訳注を中心とした研究成果を上梓した前田尊経閣文庫蔵『天文要録』（唐、李鳳撰）に関する研究を継続する。具体的には、同書第2冊（巻四）について同様の作業を継続し、完全原稿の完成を期する。</p>

8 班	<b>和漢比較文学の研究—「古金石逸文」を中心にして—</b>
	<p>期間 2012～2014年度（継続）</p> <p>メンバー（3名） 専 福田俊昭〔主任〕 担 藏中しのぶ 任 マリア・キアラ・ミリオーレ</p> <p>概要 ここでいう「古金石逸文」とは中国唐代の墓誌銘をいう。その研究は、まだ緒に着いたばかりで、訓読は勿論のこと、注釈書さえない。この研究班が先鞭となるべく、本文の翻刻を始め、校異、訓読、語釈、現代語釈を行い、考説・参考などを加えて刊行することを目標とする。尚、「古金石逸文」に関連する書籍の研究も含む。これが日本文学の研究への一助となれば幸甚である。</p>
9 班	<b>茶の湯と座の文芸</b>
	<p>期間 2011～2013年度（研究期間中）</p> <p>メンバー（5名） 担 藏中しのぶ〔主任〕 専 福田俊昭 任 相田満・安保博史・矢ヶ崎善太郎</p> <p>概要 平成16年度～18年度日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（C）（2）「茶の湯と座の文芸の本質の研究—『茶譜』を軸とする知的体系の継承と人的ネットワーク」の成果および、2008～2010年度の東洋研究所研究班「茶の湯と座の文芸」の成果として刊行した『茶譜 卷一注釈』『茶譜 卷二注釈』『茶譜 卷三注釈』を発展的に継承すべく、江戸時代中期寛文年間の成立とされる茶道百科事典『茶譜』全18巻の注釈研究を継続しておこなう。</p>
10 班	<b>『晋書』の研究</b>
	<p>期間 2010～2012年度（研究期間中）</p> <p>メンバー（9名） 担 渡邊義浩〔主任〕・高橋康浩 専 小林春樹 任 池田雅典・石井仁・小林聡・仙石知子・町田隆吉・堀池信夫</p> <p>概要 現在、二十四史に含まれる『晋書』は唐代の編纂にかかるもので、史料的に偏向が多いと言われている。唐修『晋書』の原史料となった十八家『晋書』は、断片的ではあるが、類書に散見する。従来から言われてきたような偏向が、果たして『晋書』に存在するのか否か、という問題を『晋書斟注』および『十八家晋書』を利用した校補本『晋書』の作成により解明していくことが、本研究の目的である。</p>
11 班	<b>イラン文化圏における伝統と変容の研究 —フィールド調査資料の再考—</b>
	<p>期間 2012～2014年度（新規）</p> <p>メンバー（6名） 担 原隆一〔主任〕 専 山田準 任 鈴木珠里・南里浩子・林裕・吉田雄介</p> <p>概要 ここでいう「イラン文化圏」とは、現在のイラン国（イラン・イスラーム共和国）に限定するものではない。それはインド文化圏、中央アジア・トルコ文化圏、アラブ文化圏など隣接する文化圏との歴史的交流のなかで育まれた広域の文化圏をさしている。同様に、「文化、文化圏」とは人間の生活舞台である自然生態環境、生業を基盤とした経済活動、その上に展開する社会や文化を含む総体を含んでいる。本研究では、これまでの日本人を中心とする現地フィールド調査で収集したイラン文化圏における基層文化とその変遷に関する一次資料の整理と読みかえし作業をとおして、自らの新しい研究手法を確立することにある。その際、3年間の研究成果はデジタル化による体系的整理と公表をめざす。</p>
12 班	<b>岡倉天心（覚三）にとつての「伝統と近代」</b>
	<p>期間 2012～2014年度（新規）</p> <p>メンバー（8名） 担 田辺清〔主任〕・宮瀧交二・篠永宣孝 任 池田久代・岡倉登志・岡本佳子・川島一穂・依田徹</p> <p>概要 岡倉天心（1862-1913）は、幼時より漢籍とヘボン塾で英語を学び、東京開成学校に入学、1877年東京大学で政治学、理財学ならびにフェノロサについて哲学を学び、卒業後、フェノロサの日本美術研究に協力し、古美術の研究と新しい日本画の樹立を目ざした。86年文部省の美術取調委員としてフェノロサとアメリカ経由でヨーロッパを巡り翌年帰国、東京美術学校の創設、90年校長に就任した。この間美術専門誌『国華』を創刊、日本絵画協会主宰、帝室技芸員選抜委員、古社寺保存会委員に任ぜられ、98年校長を辞職、橋本雅邦、横山大観、菱田春草、下村観山らと日本美術院を創設、新しい日本画を目ざして美術運動をおこした。1904年（明治37）大観、春草を伴い渡米し、ボストン美術館の仕事にあたり、05年同館の東洋部長となり、06年ニューヨークで『茶の本』を出版、その年の末に日本美術院を茨城県五浦へ移し、大観、春草、観山らと住み、07年文部省美術審査委員会委員となり、08年国画玉成会を結成、10年東京帝国大学で「泰東巧芸史」を講義した。翌年欧米旅行を行い、ハーバード大学からマスター・オブ・アーツの学位を受けた。続いて12年インド、ヨーロッパを経て渡米し、13年（大正2）病を得て帰国、療養に努めたが、同年9月2日新潟県赤倉山荘で没した。英文著書『東洋の理想』（1903）、『日本の覚醒（かくせい）』（1904）、『茶の本』（1906）などは外国人はもちろん、翻訳されて広く日本人にも影響を与えた。岡倉天心研究はまだまだ研究されなければならない点があるが、本研究部会においては、岡倉天心の「伝統と近代」に着目し幅広い研究を進めて行きたい。</p>

【用語】韓国における「先祖」という用語は「先祖」「先代」「始祖」「氏祖」「元祖」と伝統的に表している。

【意義】先祖供養の意義は、供養という儀礼と心構えを通して「親孝行」を制度的に表すと同時に、家族や氏族間または村や街等近隣の人々との「絆」を深める儀礼の一つとして位置づけられていると同時に、社会全体を結束させる核心的な機能を果たしてきた。

【先祖供養の源】先祖供養の始まりは韓国神話の檀君神話説紀元前 2333 年からであると伝えられているが、その起源は「天神の信仰」であったと云われている。天の神つまり自然崇拜信仰の一環から発展され、一家族において最高位にある「先祖」を崇拜し「信仰化」された思想であるといえよう。つまり古代の韓国人社会において「天神の信仰」と共に最も一般化されたのが「先祖崇拜」であると同時に、その「思想」であるが、それはやがて「先祖供養及び崇拜信仰」と昇華されたとも考えられる。

このように信仰化された先祖崇拜は、イデオロギイ的な意識が強い「始祖信仰」にまで発展され、今日に至るまで様々な人間模様が展開され今日の韓国人の思惟方法の一端が形成されたと思われる。

【具体的な先祖供養】①お墓参り及び管理の継承、②先祖供養の法事、③詳細な先祖代々の系図を記録した「族(じょ)譜(ぼ)」の管理及び継承的記録などをあげることができる。

【まとめ】

①韓国における先祖供養は、「天神信仰」言わば「天孫降臨」の思想から始まり、「先祖崇拜」及び「先祖信仰化」され、後孫達に「現在利益」を求めた。

②先祖供養により、亡き先祖達と、その後孫たちが、死と生の世界を分離されている価値観ではなく、先祖と後孫たちが持続的な「絆」を強く結びつけ、心の安住を得る為の手段として今を生きる生活様式として定着させている。

③先祖供養という儀礼儀式は一般民衆レベルにおいて外来宗教である仏教と融合され、仏教の最も基本的な思想である「生きとし生ける一切の命」を大切に考える考え方が、そのまま定型化されたものと理解され、人々の心の絆を継承させた。

④先祖供養の一形態として、「族譜」や「墓所」の維持管理という伝統的かつ厳粛な儀礼儀式を守ることによって、「家族」及び親族または近隣住民との絆を持続的に継承させた。

⑤一方においては、あまりにも先祖供養を含む冠婚葬祭を重視する「四礼便覧」や「朱子家礼」に従った儀礼儀式の習性に縛られ虚礼虚飾に堕ち



た風習も蔓延し、富める者と貧しい者との格差による素朴で真摯な先祖供養の姿とはほど遠い疲弊が拡張され、健全な国民生活振興に大きな弊害が生じ得た事も否定出来ない。

⑥しかしこの問題は、時の大統領(朴正熙: 1917~1979)により「家庭儀礼準則」(1969年1月16日韓国法律第2079号)が公布され、強制的に禁止または簡素化させられた事によって、一応解決された。例えば、葬祭に関して、今まで「三年間喪に服す」ことを「49日か100日、又は長くて1年で喪をあげさせる」、「冠婚葬祭の折に御祝儀や香料等を一切受け取らない」「派手な披露宴等を行わない」等々であった。これを違反した場合は罰則も付け強制的に禁じた。

⑦これで当面的な問題は解消されたようであったが、「先祖供養の簡素化」あるいは「略式化」によって惹起される問題点も生じた。つまり家族間の絆または親族や近隣住民との「絆の一体感」が薄れつつある現象が生じ、現代における核家族化もこの現象に拍車をかけた。

⑧しかしながら、先祖供養に関する思想は、民衆の伝統的な心境と迎合し、国の法律においても重要視されている事を窺うことが出来る。例えば仮差し押さえがあった場合、差し押さえが禁止されている物品として「位牌、遺影、墓碑、その他の葬祭などで必要な物品、族譜、先祖供養に必要な物品」(民事訴訟法532)は如何に高価なものであっても差し押さえが禁止され先祖供養の諸般が法律においても擁護されている事が韓国人にとって先祖供養は如何に大事であるかを物語ってくれるものであろう。

⑨旧暦の正月元旦と8月15日は、先祖供養の「茶礼」及び「お墓参り」を行なう為の国民的な伝統儀礼として広く定着され、国の祭日になっており、韓国社会において先祖供養が如何に重要視されているかを意味するものといえよう。

東洋研究所専任研究員 研究業績一覧 2009～2011年度

氏名	著書・学术论文等の名称	単／共	発行又は発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
山田準 (教授)				
福田俊昭 (教授)	<b>〔著書〕</b> 李嶠と雜詠詩の研究	単	2012.2.29	汲古書院〈日本学術振興会刊行出版助成費〉
	藝文類聚(巻83)訓讀付索引	共	2010.3.25	大東文化大学東洋研究所
	藝文類聚(巻84)訓讀付索引	共	2011.2.10	同上
	藝文類聚(巻85)訓讀付索引	共	2012.3.21	同上
	<b>〔論文〕</b> 『朝野僉載』に見える讖應説話(後編)	単	2009.7.25	『東洋研究』第172号
	李白の茶詩	単	2010.3.25	『茶譜 巻二注釈』
	『朝野僉載』に見える嘲諷説話	単	2010.7.25	『東洋研究』第176号
	嵯峨朝の「茶」字所録詩の一考察	単	2011.3.25	『茶譜 巻三注釈』
	『朝野僉載』に見える嘲諷説話(前編)	単	2011.7.25	『東洋研究』第180号
	<b>〔その他〕</b> 藝文類聚(巻83)本文の構成について		2010.3.25	『藝文類聚(巻83)訓讀付索引』
藝文類聚(巻84)本文の構成について		2011.2.10	『藝文類聚(巻84)訓讀付索引』	
藝文類聚(巻85)本文の構成について		2012.3.21	『藝文類聚(巻85)訓讀付索引』	
松本照敬 (教授)	<b>〔論文〕</b> ラーマーヌジャ思想の研究(6)	単	2009.7.25	『東洋研究』第172号
	『唐梵兩語双対集』の原語比定	単	2010.2.28	『成田山仏教研究所紀要』第33号
	ラーマーヌジャ思想の研究(7)	単	2010.7.25	『東洋研究』第176号
	『翻梵語』の原語比定(1)	単	2011.2.28	『成田山仏教研究所紀要』第34号
	ラーマーヌジャ思想の研究(8)	単	2011.7.25	『東洋研究』第180号
岡崎邦彦 (准教授)	<b>〔論文〕</b> 1937年西北善後処理問題(上) —張学良拘束による西安と南京の対立—	単	2009.7.25	『東洋研究』第172号
	1937年西北善後処理問題(中) —南京側と西安側の交渉と内戦危機—	単	2010.12.25	『東洋研究』第178号
	1937年西北善後処理問題(下) —2・2事件と三位一体の瓦解—	単	2011.12.25	『東洋研究』第182号
<b>〔学会発表〕</b> 1937年2・2事件と中国共産党		2010.10.24	アジア政経学会全国大会(東京大学駒場)	
小林春樹 (准教授)	<b>〔著書〕</b> 『天文要録』の考察〔一〕	共	2011.3.25	大東文化大学東洋研究所
	<b>〔論文〕</b> 『漢書』「元后伝」・「王莽伝」の構成と述作目的	単	2009.7.25	『東洋研究』第172号
	『漢書』帝紀の著述目的 —「高帝紀」から「元帝紀」を中心として—	単	2010.7.25	『東洋研究』第176号
	『漢書』の正統観・漢王朝観について —板野長八の理解の再検討—	単	2011.7.25	『東洋研究』第180号
	<b>〔学会発表〕</b> 司馬遷における『史記』述作の個人的動機について		2009.9.16	東アジア文化の正体性と疎通性—自我観念を中心として・中日韓学術討論会(韓国・成均館大学校)

■ 1 班 = 東洋における異文化の本質的相違性に関する研究

【研究会】場 所：東洋研究所共同研究室

①日 時：2011 年 10 月 13 日 (木)

人 数：6 名

発表者：小林春樹

テーマ：現代日本人が中国古代文化から得るべき教訓

②日 時：2011 年 12 月 1 日 (木)

人 数：6 名

発表者：兵頭徹

テーマ：百年史編纂委員会の開設に向けた経過報告

■ 2 班 = 歴史的にみた中国の対少数民族政策と少数民族の伝統的社会

【研究会】

①日 時：2012 年 1 月 30 日 (月) 16:00 ~ 17:00

場 所：大東文化会館 4 階 401 室

参加者：岡田宏二・村井信幸・加治明・由川稔  
岡崎邦彦 5 名

発表者：由川稔

テーマ：モンゴル国の経済開発をめぐる国際関係

■ 3 班 = 中国 21 世紀の発展と課題

【研究会】場 所：大東文化会館①② 403、

③④ 401 研修室

①日 時：2011 年 5 月 28 日 (土) 15:00 ~ 17:00

発表者：植松希久磨

テーマ：中国語における新語の出現と社会的意義

②日 時：2011 年 9 月 10 日 (土) 15:00 ~ 18:00

発表者：(1) 安藤正士

テーマ：西安事変

発表者：(2) 岡崎邦彦

テーマ：その後の西北善後処理問題について—  
2・2 事件

③日 時：2011 年 11 月 19 日 (土) 15:00 ~ 17:00

発表者：伊藤一彦

テーマ：最近の中国と北朝鮮

④日 時：2012 年 3 月 17 日 (土)

第 1 報告：10:00 ~ 13:00

発表者：小島麗逸

テーマ：新しい中国文明の形成に向かうか？

第 2 報告：14:00 ~ 17:00

発表者：上野英詞

テーマ：南シナ海問題の最近の動向

※なお、第 3 班研究会は公開で行っております。また、小島麗逸先生主催「中国経済研究会」(大東文化会館、毎月 1 回)へ参加しております。

■ 4 班 = 昭和社会経済史の総合的研究

【研究会】

①日 時：2011 年 7 月 30 日 (土) 14:00 ~

場 所：東洋研究所共同研究室

参加者：石井寛治・兵頭徹・大杉由香・小湊浩二・  
佐賀香織

発表者：佐賀香織

テーマ：戊申俱樂部における中野武管

②日 時：2011 年 11 月 12 日 (土) 14:00 ~

場 所：東洋研究所共同研究室

参加者：石井寛治・兵頭徹・大杉由香・小湊浩二・  
佐賀香織

発表者：大杉由香

テーマ：(1) 戦間期東京市における貧困・生存を  
めぐる関係—貧困者の実態と社会事  
業のあり方をめぐって—

(2) 韓国を訪問して

木浦市の発展には何が必要なのか

—小樽市との比較をふまえての一考  
察—

③日 時：2012 年 2 月 15 日 (土) 14:00 ~

場 所：環境創造学部ワーキングルーム

参加者：石井寛治・兵頭徹・大杉由香・小湊浩二・  
佐賀香織・岡村與子

発表者：(1) 石井寛治

テーマ：戦間期の大阪系ブルジョアジーのエートス

発表者：(2) 大杉由香

テーマ：日本におけるフィランソロピー

—米国を中心とした国際的視点、歴史的視  
点、福祉の視点から見えてきた特徴と問  
題—

【刊行物】

『昭和社会経済史料集成—昭和研究会資料 (別巻)』

第 38 巻 2011 年 8 月 31 日刊行

■ 5 班 = 日中文学の比較文学的研究—『藝文類聚』を中心にして—

【研究会】場 所：東洋研究所共同研究室

日時	人数	担当者	テーマ
① 4 月 16 日 (土)	8 名	河井義樹	巻 85 訓読
② 5 月 21 日 (土)	6 名	福田俊昭	巻 86 訓読
③ 6 月 25 日 (土)	6 名	福田俊昭 中林史朗	巻 86 訓読
④ 7 月 23 日 (土)	5 名	中林史朗	巻 86 訓読
⑤ 8 月 20 日 (土)	5 名	芦川敏彦	巻 86 訓読
⑥ 10 月 1 日 (土)	6 名	芦川敏彦 河井義樹	巻 86 訓読
⑦ 10 月 22 日 (土)	7 名	河井義樹	巻 86 訓読
⑧ 11 月 26 日 (土)	6 名	河井義樹	巻 86 訓読
⑨ 12 月 17 日 (土)	6 名	河井義樹	巻 86 訓読
⑩ 1 月 21 日 (土)	7 名	関 清隆	巻 86 訓読
⑪ 2 月 25 日 (土)	7 名	福田俊昭	巻 86 訓読
⑫ 3 月 24 日 (土)	5 名	福田俊昭	巻 86 訓読

【刊行物】

『藝文類聚』(巻 85) 訓読付索引

2012 年 3 月 21 日刊行

■ 6 班 = 大西洋世界とインド洋—太平洋世界を結ぶもの：西欧植民地主義再考

【研究会】

①日 時：2011 年 4 月 13 日 (水) 10:00 ~ 16:00

場 所：東洋研究所山田研究室

参加者：山田準・齋藤俊輔 2 名

内 容：論文作成のためのポルトガル及びオランダ  
文献・史料の検討と情報交換

②日 時：2011年10月15日（土）12:00～15:00

場 所：池袋燈屋

参加者：生田滋・岡倉登志・原隆一・山田準・瀧口  
明子 齋藤俊輔 6名

内 容：各自担当地域の研究情報の交換及び来年度  
に向けての研究計画

#### 【調査】

日 程：2012年3月12日（月）～15日（木）

場 所：長崎県長崎市・佐世保市、福岡県福岡市

出張者：齋藤俊輔

目 的：長崎歴史博物館史料及び文献調査

成 果：長崎市内唐人屋敷跡、出島、長崎市博物館  
の見学と文献調査・資料収集を実施、及び  
長崎県立大学長島教授からの資料提供、助  
言を受けることができた。

#### ■7班=唐・李鳳撰『天文要録』の研究（訳注作業を中 心として）

【研究会】場 所：東洋研究所共同研究室

①日 時：2011年4月9日（土）

参加者：濱久雄・近藤正則・山下克明・小林春樹  
（田中良明・大兼寛健）

テーマ：『天文要録』第一冊（巻1）の訳注原稿の  
作成

内 容：濱氏の訓読試案を全員で検討のうえ、現代  
語訳、語釈・参考文献の原案作成

※田中良明氏は大東文化大学大学院出身者として、大  
兼寛健氏は同博士後期課程在學生としてオブザーバ  
ーとして参加（以下同様）

②日 時：2011年5月14日（土）

参加者：濱久雄・近藤正則・山下克明・小林春樹  
（田中良明・大兼寛健）

テーマ：『天文要録』第一冊（巻1）の訳注原稿の  
作成

内 容：濱氏の訓読試案を全員で検討のうえ、現代  
語訳、語釈・参考文献の原案作成

③日 時：2011年6月11日（土）

参加者：濱久雄・近藤正則・山下克明・小林春樹  
（田中良明・大兼寛健）

テーマ：『天文要録』第一冊（巻1）の訳注原稿の  
作成

内 容：濱氏の訓読試案を全員で検討のうえ、現代  
語訳、語釈・参考文献の原案作成

④日 時：2011年7月9日（土）

参加者：濱久雄・近藤正則・山下克明・小林春樹  
（田中良明・大兼寛健）

テーマ：『天文要録』第一冊（巻1）の訳注原稿の  
作成

内 容：濱氏の訓読試案を全員で検討のうえ、現代  
語訳、語釈・参考文献の原案作成

⑤日 時：2011年9月17日（土）

参加者：濱久雄・近藤正則・山下克明・小林春樹  
（田中良明・大兼寛健）

テーマ：『天文要録』第一冊（巻1）の訳注原稿の

作成

内 容：濱氏の訓読試案を全員で検討のうえ、現代  
語訳、語釈・参考文献の原案作成

⑥日 時：2011年10月8日（土）

参加者：濱久雄・近藤正則・山下克明・小林春樹  
（田中良明・大兼寛健）

テーマ：『天文要録』第一冊（巻1）の訳注原稿の  
作成

内 容：濱氏の訓読試案を全員で検討のうえ、現代  
語訳、語釈・参考文献の原案作成

⑦日 時：2011年11月12日（土）

参加者：濱久雄・近藤正則・山下克明・小林春樹  
（田中良明・大兼寛健）

テーマ：『天文要録』第一冊（巻1）の訳注原稿の  
作成

内 容：濱氏の訓読試案を全員で検討のうえ、現代  
語訳、語釈・参考文献の原案作成

⑧日 時：2011年12月10日（土）

参加者：濱久雄・近藤正則・山下克明・小林春樹・  
中村聡・細井浩志（田中良明・大兼寛健）

テーマ：『天文要録』第一冊（巻1）の訳注原稿の  
推敲

内 容：『天文要録』第一冊（巻1）講読、訳注原  
稿を全員で推敲

⑨日 時：2012年1月14日（土）

参加者：濱久雄・近藤正則・山下克明・小林春樹・  
中村聡・細井浩志（田中良明・大兼寛健）

テーマ：『天文要録』第一冊（巻1）の訳注原稿の  
推敲

内 容：『天文要録』第一冊（巻1）講読、訳注原  
稿を全員で推敲

⑩日 時：2012年2月11日（土）

参加者：濱久雄・近藤正則・山下克明・小林春樹・  
中村聡・細井浩志（田中良明・大兼寛健）

テーマ：『天文要録』第一冊（巻1）の訳注原稿の  
推敲

内 容：『天文要録』第一冊（巻1）講読、訳注原  
稿を全員で推敲

#### 【調査】

日 程：2012年3月22日（木）～24日（土）

場 所：暦会館

出張者：細井浩志

目 的：日本近世の暦法、占法に関する全体的調査

成 果：『天文要録』に散見される占文のうち、訓読  
不明箇所等の解明等

#### ■8班=和漢比較文学の研究—「古金石逸文」を中心 にして—

【研究会】

①日 時：2011年4月7日

②日 時：2011年5月12日

③日 時：2011年6月10日

④日 時：2011年10月7日

⑤日 時：2011年11月7日

場 所：大東文化大学蔵中しのぶ研究室

参加者：蔵中しのぶ・福田俊昭



⑤のみクリスティーナ・ラフィン（カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学准教授）・安倍オースタッド玲子（ノルウェー・オスロ大学教授）も参加

テーマ：王勃の佚文

### ■ 9 班 = 茶の湯と座の文芸

#### 【研究会】

- ①日 時：2011年 5月10日（年間予定確認）
- ②日 時：2011年 5月17日
- ③日 時：2011年 5月31日
- ④日 時：2011年 6月 7日
- ⑤日 時：2011年 6月14日
- ⑥日 時：2011年 6月21日
- ⑦日 時：2011年 6月28日
- ⑧日 時：2011年 7月 5日
- ⑨日 時：2011年 7月12日
- ⑩日 時：2011年 7月19日
- ⑪日 時：2011年 7月26日
- ⑫日 時：2011年 8月 5日
- ⑬日 時：2011年 8月 6日
- ⑭日 時：2011年 8月 7日
- ⑮日 時：2011年10月 4日
- ⑯日 時：2011年10月11日
- ⑰日 時：2011年10月25日
- ⑱日 時：2011年11月 1日
- ⑲日 時：2011年11月 8日
- ⑳日 時：2011年11月15日
- ㉑日 時：2011年11月22日
- ㉒日 時：2011年11月29日
- ㉓日 時：2011年12月 6日

㉔日 時：2011年12月13日

㉕日 時：2011年12月20日

㉖日 時：2011年12月27日

㉗日 時：2012年 1月17日

場 所：①～⑪, ⑮～㉗大東文化大学 10508 教室  
⑫～⑭大東文化会館

参加者：20名

発表者：②～⑤谷、④～⑧佐藤、⑨～⑫藏中、  
⑬安保、⑭相田・三田、⑮濱田、⑯谷、  
⑰藏中、⑱～㉒、㉓、㉔鈴村、㉕藏中

テーマ：②～⑧数寄屋床之事

⑨～⑭墨蹟掛巻之事

⑮金森飛驒守日

⑯、⑰、㉓表具寸法之事

⑱～㉒、㉓、㉔墨蹟写

内 容：校勘及び本文訓読、語釈

#### 【刊行物】

『茶譜』巻四 注釈

2012年3月21日刊行

### ■ 10 班 = 『晋書』の研究

①日 時：2012年2月11日

場 所：大東文化会館

参加者：12名

発表者：堀池信夫

テーマ：西への旅—馬徳新『朝覲途記』をめぐって

内 容：中国イスラムの概要、ならびに馬徳新『朝覲途記』を通じて、晋代における仏教受容の研究へのヒントを提示する報告が行われた。

## 〔研究員の著書紹介〕 福田俊昭著『李嶠と雑詠詩の研究』

小林 春樹

『李嶠雑詠』（『李嶠百二十詠』、『李嶠百詠』とも呼ぶ）は平安時代に伝来し、摺紳の愛読書となっていたにもかかわらず、従来、総合的な研究は十分におこなわれてこなかった。

本書において、

1. 雑詠詩と李嶠集の諸本の所在の明確化
2. 雑詠詩の押韻・平仄・對句などの内容の調査
3. 当時の文学的思潮の最先端であった近体詩成立との関連性の検討
4. 雑詠詩が童蒙書として重視されたことの要因、すなわち典拠としての故事の精査など、多角的な検討を試みた所以である。

ちなみにその成果、もしくは結論として、日本において『李嶠雑詠』とその収録作品が愛読されてきた理由は、それを読むことによって中国の古典を学習することができた点に存することが判明した。

なお本書においては、注釈者等についても実証的検討をおこなって当該書に関する総合的研究としての性格を付与することを期した。

福田俊昭著 『李嶠と雑詠詩の研究』

汲古書院

2012年2月刊

A5 1136頁 本体22,000円＋税

■人 事

東洋研究所特任講師

2012年4月1日付 採用（歴史資料館出向）

浅沼 薫奈

管理委員会委員に委嘱

【新任】原 隆一

（期間：2012年4月1日～2014年3月31日）

兼任研究員に委嘱

【新任】宮瀧 交二

（期間：2012年4月1日～2014年3月31日）

兼任研究員に委嘱

【新任】池田 久代・岡倉 登志・岡本 佳子

片岡 弘次・川嶌 一穂・鈴木 珠里・南里 浩子

林 裕・吉田 雄介・依田 徹

（期間：2012年4月1日～2014年3月31日）

特別兼任研究員に委嘱

【新任】安藤 正士

（期間：2012年4月1日～2013年3月31日）

東洋研究所事務室

福田 八重子 2012年4月1日付

東洋研究所事務室事務長に配置換え

■名 簿

東洋研究所管理委員会委員（8名）

山田 準（所長・専任研究員）

福田 俊昭（専任研究員）

松本 照敬（専任研究員）

兵頭 徹（専任研究員）

渡邊 義浩（兼任研究員）

篠永 宣孝（兼任研究員）

田辺 清（兼任研究員）

原 隆一（兼任研究員）

所長・専任研究員（7名※内2名は歴史資料館出向）

所 長

山田 準 教授（東西交渉史・貿易史）

研究員

福田 俊昭 教授（日中比較文学・中国文学史）

松本 照敬 教授（インド思想史）

岡崎 邦彦 准教授（中国政治経済）

小林 春樹 准教授（東洋哲学）

兵頭 徹 教授（※歴史資料館出向）

浅沼 薫奈 特任講師（※歴史資料館出向）

事務室（2名）

事 務 長 福田 八重子

専 門 嘱 託 大山 郁子

兼任研究員（21名）

日吉 盛幸（文・日本文学科 教授）

浜口 俊裕（文・日本文学科 准教授）

中林 史朗（文・中国学科 教授）

渡邊 義浩（文・中国学科 教授）

村井 信幸（文・中国学科 准教授）

高橋 康浩（文・中国学科 特任講師）

宮瀧 交二（文・英米文学科 准教授）

篠永 宣孝（経・社会経済学科 教授）

藏中しのぶ（外・日本語学科 教授）

齊藤 哲郎（法・政治学科 教授）

中村 昭雄（法・政治学科 教授）

武田 知己（法・政治学科 教授）

内田 知行（国・国際関係学科 教授）

柴田 善雅（国・国際関係学科 教授）

瀧口 明子（国・国際関係学科 准教授）

井上 貴子（国・国際文化学科 教授）

岡田 宏二（国・国際文化学科 教授）

田辺 清（国・国際文化学科 教授）

原 隆一（国・国際文化学科 教授）

大杉 由香（環・環境創造学科 准教授）

小湊 浩二（環・環境創造学科 講師）

兼任研究員（38名）

相田 満（国文学研究資料館准教授）

芦川 敏彦（浜松学芸中・高等学校非常勤教諭）

安保 博史（群馬県立女子大学教授）

池田 久代（皇學館大学教授）

池田 雅典（埼玉県立所沢高等学校常勤講師）

石井 寛治（東京大学名誉教授）

石井 仁（駒澤大学准教授）

伊藤 一彦（中国研究所理事）

上野 英詞（海洋政策研究財団調査役）

植松 希久磨（大東文化大学非常勤講師）

岡倉 登志（大東文化大学名誉教授）

岡本 佳子（国際基督教大学准研究員）

片岡 弘次（大東文化大学名誉教授）

川嶌 一穂（大阪芸術大学短期大学部教授）

窪田 道夫（筑波大学産学リエゾン共同研究センター）

小坂 真二（陰陽道研究者）

小林 聡（埼玉大学教授）

小林 龍彦（前橋工科大学教授）

近藤 正則（岐阜女子大学教授）

齋藤 俊輔（日伯学園日本語教師）

嶋 亜弥子（日本福祉大学非常勤講師）

鈴木 珠里（大東文化大学非常勤講師）

仙石 知子（日本学術振興会特別研究員）

谷口 房男（東洋大学名誉教授）

中村 聡（玉川大学教授）

中村 士（帝京平成大学教授）

成田 守（大東文化大学名誉教授）

南里 浩子（東京国際大学非常勤講師）

林 裕（国際協力機構南アジア部）

細井 浩志（活水女子大学教授）

堀池 信夫（筑波大学名誉教授）

町田 隆吉（桜美林大学教授）

マリア・キアラ・ミリオレ（イタリア国立サレント大学教授）

矢ヶ崎善太郎（京都工芸繊維大学准教授）

山下 克明（国際日本文化研究センター共同研究員）

由川 稔（ヴェネツィア総合研究所企画部マネージャー）

吉田 雄介（関西大学非常勤講師）

依田 徹（大宮盆栽美術館学芸員）

特別兼任研究員（8名）

安藤 正士（筑波大学名誉教授）

生田 滋（大東文化大学名誉教授）

遠藤 光正（無窮会理事、東洋研究所元所長）

小島 麗逸（大東文化大学名誉教授）

近藤 邦康（東京大学名誉教授）

進藤 英幸（無窮会東洋文化研究所所長）

中島 宏（中国研究所研究員）

濱 久雄（無窮会専門図書館長）

## 2011 年度東洋研究所会議報告

### ■管理委員会

- ①日 時：2011年6月23日(木) 10:30～  
場 所：東洋研究所共同研究室  
(議案)  
1. 東洋研究所予算に関する事項について  
2. 2011年度 東洋研究所公開講座の実施について  
3. 2011年度 東洋研究所出版計画について  
4. 2012年度 東洋研究所の事業計画に関する事項について  
5. 東洋研究所研究員の人事に関する事項について
- ②日 時：2011年11月1日(火)  
場 所：持ち回り  
(議案) 2012年度東洋研究所の人事について
- ③日 時：2011年12月8日(木) 10:30～  
場 所：東洋研究所共同研究室  
(議案)  
1. 2011年度公開講座の実施について  
2. 東洋研究所刊行物の発行状況について  
3. 2012年度共同研究計画書(案)について  
4. 東洋研究所特任研究員(特任講師)の採用人事について  
5. 東洋研究所管理委員会委員の推薦について  
6. 2012年度東洋研究所研究員の人事について  
7. 2012年度兼担依頼について  
8. 2012年度兼職について  
9. 2012年度予算積算について  
10. 2012年度東洋研究所刊行物の企画について  
11. 2011年度研究員総会、国際交流(講演会)の実施について

- ④日 時：2011年12月15日(木)  
場 所：持ち回り  
(議案) 2012年度東洋研究所特任研究員(特任講師)採用予定者の資格審査について
- ⑤日 時：2011年2月18日(土) 13:00～  
場 所：大東文化会館 K-0403  
(議案)  
1. 東洋研究所刊行物の発行状況について  
2. 東洋研究所特任研究員(特任講師)の採用人事について  
3. 吉林師範大学東亜研究所よりのシンポジウム開催申し入れについて  
4. 「東洋研究」編集委員長の交代について  
5. 研究員総会および国際交流講演会について  
6. 東松山市きらめき市民大学への講師派遣について

### ■所内会議

- ① 4月14日(木) 10:00～  
② 5月12日(木) 10:00～  
③ 6月9日(木) 10:00～  
④ 7月14日(木) 10:00～  
⑤ 9月22日(木) 10:00～  
⑥ 10月13日(木) 10:00～  
⑦ 11月10日(木) 9:30～  
⑧ 12月1日(木) 10:00～  
⑨ 1月12日(木) 10:00～  
⑩ 2月16日(木) 10:00～

### ■共同研究部会主任会議

- ① 9月29日(木) 10:30～

## 2011 年度発行『東洋研究』

- 東洋研究 第180号(2011年7月25日発行)  
福田 俊昭…『朝野稗載』に見える嘲嗤説話(前編)  
小林 春樹…『漢書』の正統観・漢王朝観について—板野長八の理解の再検討—  
高橋 康浩…韋昭と 神祕性—鄭学との関わりを中心として—  
松本 照敬…ラーマヌジャ思想の研究(8)  
瀧口 明子…欧米茶書の中の東洋—シモン・パウリ『煙草・茶論』研究—
- 東洋研究 第181号(2011年11月25日発行)  
武田 知己…外務省と知識人 1944—1945(一)—「ジャポニカス」工作と「三年会」—  
兵頭 徹 …海軍省調査課と嘱託の役割(七)—国内思想戦と調査課ブレーン—  
岡倉 登志…アメリカ帝国の形成と文化・イデオロギー—アメリカフィリピン戦争を中心に—  
齋藤 俊輔…ポルトガル領インディアの防衛と総督—1546年の第二次ディウ包囲を事例に—
- 東洋研究 第182号(2011年12月25日発行)  
安保 博史…芭蕉供養の研究—元禄期を中心として—  
由川 稔 …オユ・トルゴイ、タバントルゴイ、新鉄道等、鉱業関連領域に見る、モンゴル国の市場経済の深化  
柴田 善雅…中国関内開港地日系銀行の活動  
岡崎 邦彦…1937年西北善後処理問題(下)—「2・2事件」と三位一体の瓦解—
- 東洋研究 第183号(2012年1月25日発行)  
小坂 真二…十二世紀代の怪異六壬式占文について(一)  
濱 久雄 …礼の起源とその展開—凌廷堪の『礼経釈例』を中心として—  
渡邊 義浩…王莽の官制と統治政策  
中村 聡 …『博物新編』と科学教育  
井上 貴子…インド古典芸能の美学とヨーロッパの美学  
—カラー、ラサ、バクティ、そしてアートの位置づけをめぐって—

## 新刊案内

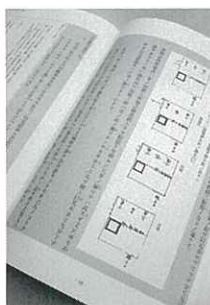


『藝文類聚』(巻85) 訓読付索引  
大東文化大学東洋研究所「藝文類聚」研究班 代表 福田 俊昭  
2012年3月21日発行／B5判 130頁／頒価¥5,000 (税別)

『藝文類聚』は中国の類書の中でも早い成立に属する類書で、日本文学への影響は計り知れないものがある。本書はその『藝文類聚』を巻ごとに訓読文を施し、四部叢刊に採録されている作品については校異を付し、最後に利用者の便を考えて重要語彙索引を掲載したものである。

巻85は、「百穀部」の穀 禾 稻 稗 黍 粟 豆 麻 麥と「布帛部」の素 錦 絹 綾 羅 布 を収録している。

《既刊》巻1～巻16、巻80～巻84



『茶譜』巻4 注釈  
藏中しのぶ・福田 俊昭・相田 満・安保 博史・矢ヶ崎 善太郎共著  
2012年3月21日発行／B5判 296頁／頒価¥8,000 (税別)

『茶譜』全18巻は、茶道流派の生成がきざし始めていた寛文年間(1661～1673)頃の成立とされ、茶道全般におよぶ総合的な類聚編纂書である。各項目について、千利休流・小堀遠州流・古田織部流・金森宗和流等、流派のちがいを対照的に提示しつつ、茶の湯や茶室にかかわるさまざまな記事を類聚編纂した茶道百科事典ともいべき性格を備えている。

《既刊》巻1～巻3



『昭和社会経済史料集成』第38巻 昭和研究会資料(別巻) 一総目次・総索引一  
兵頭 徹・大久保 達正・永田 元也 編集  
2011年8月31日発行／A5判 551頁／頒価¥9,000 (税別)

昭和研究会は、後藤隆之助(1888～1984)主宰のもと昭和8年に発足した民間国策研究機関で、近衛文麿(1891～1945)のプレーン・トラスト集団である。政治、外交、経済、社会、教育、文化等の分野に当時一流の有識者が数多くの政策研究案を立案した。本巻には、第31巻から第37巻に収録した「昭和研究会資料」の総目次に総索引を付し、さらに、昭和同人会を中心とした13件の資料を補遺として採録した。

《既刊》第1～30巻 海軍省資料(1)～(30)、第31～37巻 昭和研究会資料(1)～(7)

☆この他の東洋研究所刊行物についてはホームページをご覧ください。

### 刊行図書取扱店

#### ■汲古書院

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-5-4  
TEL (03) 3265-9764

#### ■池上書店(大東文化大学板橋校舎内)

〒175-8571 東京都板橋区高島平1-9-1  
TEL (03) 3932-7567

#### ■進明堂(大東文化大学東松山校舎内)

〒355-8501 埼玉県東松山市岩殿560  
TEL (0493) 34-4430

### 大東文化大学東洋研究所所報 No.57

2012年6月30日発行

編集・発行 大東文化大学東洋研究所

〒175-0083 東京都板橋区徳丸2-19-10

TEL(03)5399-7351 FAX(03)5399-8756

E-mail: tokenji@ic.daito.ac.jp

URL <http://www.daito.ac.jp>

印刷 (株)東京技術協会